

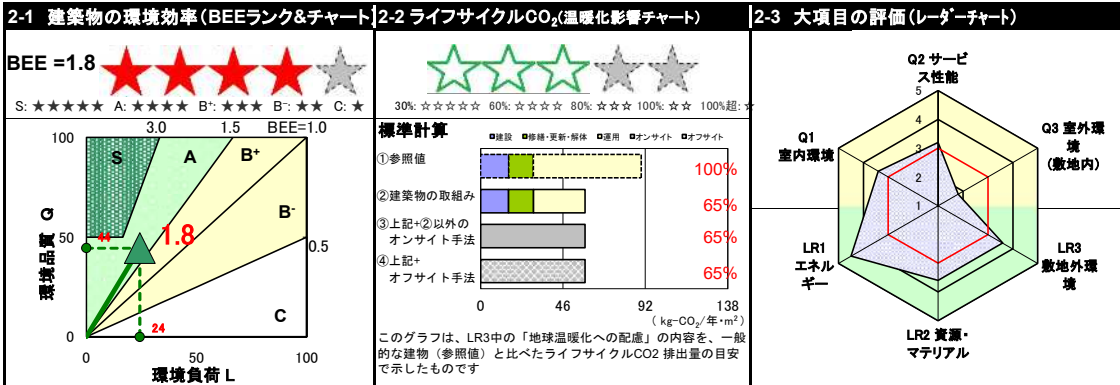
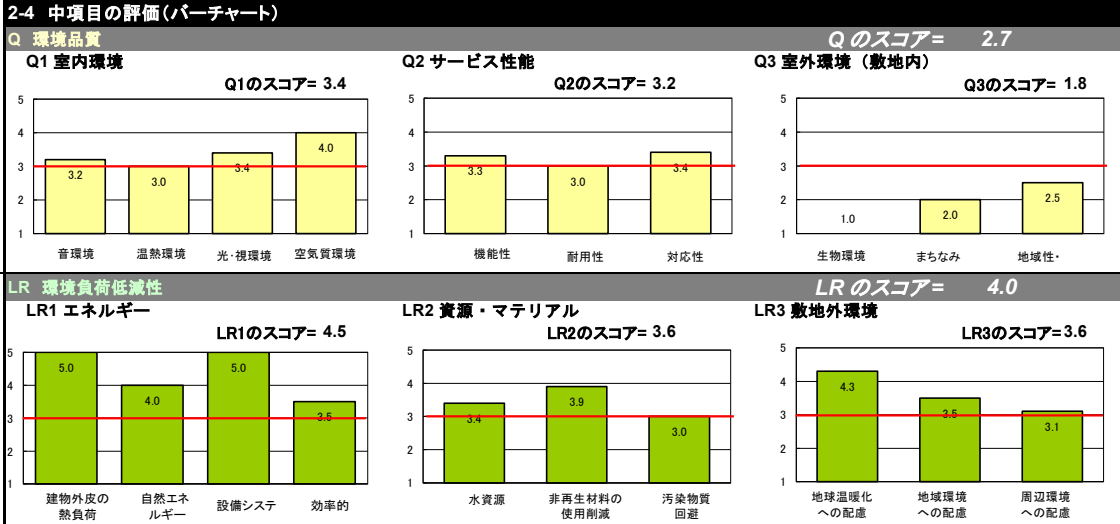


■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中立電機株式会社 新FA工場建設プロジェクト	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊明市番掛町明和5番2、棟ノ木57番3	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	35 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,876 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年2月 予定	評価の実施日	2026年3月24日
敷地面積	3,657 m ²	作成者	東 雅之
建築面積	1,419 m ²	確認日	2026年3月24日
延床面積	2,927 m ²	確認者	東 雅之



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.3	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.5	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)中立電機株式会社 新FA工場建設プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境						0.32			-	3.4
1 音環境				0.4	3.2	0.15			-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			-	
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-	
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60			-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40		3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		3.0	-	
1.3 吸音		床・天井・壁それぞれに吸音材料を採用		-	4.0	0.20		3.0	-	
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35			-	3.0
2.1 室温制御				0.5	3.5	0.50			-	
1 室温				3.0	3.0	0.38		3.0	-	
2 外皮性能		各外皮の面積比率によりレベル選定		3.0	5.0	0.25		3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	2.0	0.20		3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-	
3 光・視環境				0.2	3.4	0.25			-	3.4
3.1 昼光利用				0.3	1.8	0.30			-	
1 昼光率				3.0	1.0	0.60		3.0	-	
2 方位別開口				-	-	-		-	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30			-	
1 昼光制御		ブラインド・庇で昼光を制御する		5.0	4.0	1.00		3.0	-	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	-	
3.4 照明制御		リモコンで1作業単位ごと照明を制御できる		3.0	5.0	0.25		3.0	-	
4 空気質環境				0.2	4.0	0.25			-	4.0
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			-	
1 化学汚染物質		建築基準法規制対象外となる建材をほぼ全面的に使用		3.0	4.0	1.00		3.0	-	
4.2 換気				0.3	3.6	0.30			-	
1 換気量		建築基準法および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍を満たす		3.0	4.0	0.33		3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方位かつ、排気口と6m以上離れている		3.0	4.0	0.33		3.0	-	
4.3 運用管理				0.2	4.5	0.20			-	
1 CO ₂ の監視		手動での計測を前提としたシステム		3.0	4.0	0.50			-	
2 喫煙の制御		空気室維持のための管理マニュアルを整備予定 喫煙室なし		3.0	5.0	0.50			-	
Q2 サービス性能				-	-	0.30			-	3.2
1 機能性				0.4	3.3	0.40			-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40			-	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.33		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	4.0	0.30			-	
1 広さ感・景観 (天井高)		事務室の天井高2.7m 外壁には等間隔で窓を設置		3.0	4.0	0.33		3.0	-	
2 リフレッシュスペース		執務スペース対し17%の休憩エリアを確保+自動販売機の設置		3.0	5.0	0.33		-	-	
3 内装計画				3.0	3.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31			-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23			-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				-	3.0	0.23			-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		主要内装仕上は更新間隔の長い部材を採用		-	5.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主用途上位3種の2種類以上にBを採用、Eは採用しない		-	5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-	
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19			-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20			-	

3 対応性・更新性					0.2	3.4	0.29					3.4
3.1 空間のゆとり			②		0.3	4.6	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	3.700m以上の階高を確保		-	5.0	0.60		3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.13		3.0	4.0	0.40		3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-			
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	-		
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22		-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38		-	-	-	1.8	
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	2.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	4.0	
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	4.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.70	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				ハイスାଇドライト・ナイトバージ等の自然エネルギーの利用	3.0	4.0	0.12	-	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.48	3.0	5.0	0.46	-	-	-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5	
	集合住宅以外の評価				1.0	3.5	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング	標準入力法での計算により、基本計画時よりZEB検討を実施			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制				3.0	4.0	0.50	-	-	-		
	集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング				-	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.6	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1	節水	自動水栓機能つき水栓が主要水栓の過半を占める 擬音装置付き、洗浄水量の少ない便器の採用			3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9	
2.1	材料使用量の削減	② 独自 自動洗浄装置及びその組み込み小便器、大便器、節水器具または給水栓			-	3.0	0.07	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	5.0	0.21	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		独自			3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤				-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-		
3	冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.6	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率65%	-	4.3	0.33	-	-	-	4.3	
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5	
2.1	大気汚染防止	燃焼機器の使用なし			-	5.0	0.25	-	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自		十分な駐車・駐輪スペースの確保	-	5.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制				-	2.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自			-	3.0	1.00	-	-	-		
2	振動	独自			-	-	-	-	-	-		
3	悪臭				-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-		
3	日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目一部を満たす+広告物照明の設置無し			-	4.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)中立電機株式会社 新FA工場建設プロジェクト

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	3.5	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:37.1%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	法規制と建築主が求める諸条件をクリアして計画を行った。 照明器具にLEDを採用し省エネに貢献
Q1 室内環境	従事者が不快と感じる室内環境とならぬよう 外光を取り込めれる開口部を 設け 閉塞感を軽減に配慮する。 間仕切りに一部遮音性を持たせることで 生産性の向上に配慮する。
Q2 サービス性能	用途変更の可能性を考慮し階高や空間の形状などゆとりのある計画としてい る。
Q3 室外環境(敷地内)	燃焼設備を不採用とし敷地内への温熱環境に寄与する。
LR1 エネルギー	照明器具の算定においては省エネ基準を満たしエネルギー消費低減に努め ている。
LR2 資源・マテリアル	水栓は自動水栓機能付とし節水型便器の採用とともに水資源に対し配慮す る。
LR3 敷地外環境	可能な限り敷地外環境に悪影響を及ぼさない配慮とした。
その他	廃棄物の分別収集、分別監視・専門工事別回収をすることにより廃棄物発 生の抑制に努めます。